



# 三条北ロータリークラブ週報



2012-2013年度

国際ロータリー会長：田中作次（八潮RC）「奉仕を通じて平和を」

第2560地区ガバナー：鈴木重壺（長岡RC）「恕の心を以て・奉仕を通じて平和を」

三条北ロータリークラブテーマ「意義或るロータリーライフをたのしもう」

会長：早川 瀧雄

幹事：坂内 康男

SAA：高橋 研一

例会日：火曜日12:30～13:30

例会場：三条ロイヤルホテル Tel.34-8111

事務局：三条市本町3-5-25三条ロイヤルホテル内

TEL:0256-35-7160 FAX:0256-35-7488

HP：<http://www.sanjo-nrc.org>

AD：[north@sanjo-nrc.org](mailto:north@sanjo-nrc.org)

## 会長挨拶：早川瀧雄会長



本日は平日のお忙しい処、三条クラブ、三条南クラブ、三条東クラブそして北クラブの皆様ご参加頂きありがとうございます。

今年の3月12日(月)に市内RC会長幹事会を開催させて頂き、年度の事業等打ち合せの中で、4RC合同で

社会奉仕事業を行いたいとの申し出を、各会長幹事様より快く賛成頂き、その後、社会奉仕委員長も交えて5回にわたり、会議を開催させて頂きました。

大震災の復興ままならない、被災地に何かできないかと検討し、物資、義援金等も良いことですが、何よりも活気づけることが大切ではとの意見でまとなり、現地に出向いて現状を視察し、今後の協力方法を考える機会にできないかとの思いで、今回の「東日本大震災被災地追悼視察研修」を企画し、実施することができました。各クラブの会長幹事はじめ、会員の皆様にお礼申し上げます。

被災地でたくさんお土産を買うことも復旧復興の一助になるようです。会社の慰安旅行、仲間同士の旅行等で訪問して一日も早く活気を取り戻し、被災された方々に笑顔が戻ることを祈りたいと思います。

又今回は4RCの絆を更に深めることができる様に楽しい研修にしたいと思います。宜しくお願いいたします。



## 本日の行事：「三条市内4RC合同事業」

### 東日本大震災被災地追悼視察研修

◆本日の出席：69名中36名(内記帳12名)

◆先々週の出席率：69名中54名 78.26%  
前年同期 77.94%

#### ◆先週のメイクアップ（敬称略）

10月10日三条RCへ 石黒隆夫

11日地区ゴルフ大会 中條耕二

羽賀一真、早川瀧雄

丸山 勝

15日三条南RCへ 樋口 勤

山中 正、山上茂夫

#### ◆本日の記帳受付（敬称略）

三 条RC 加藤紋次郎、斎藤弘文

五十嵐昭一、浅野金治、中村和彦

藤田紘一、五十嵐晋三、大沼公成

熊倉昌平

三条南RC 野島廣一郎、佐々木常行

田代徳太郎

三条東RC 小林昭雄、古澤秀夫



## 三条市内4ロータリークラブ 東日本大震災被災地追悼視察研修

参加者数：55名（三条RC14・三条南RC10・三条東RC7・三条北RC24）  
10月16日（火）・17日（水）一泊二日（南三陸町視察研修：世界遺産中尊寺視察）  
宿泊：南三陸温泉  
16日（火）三条ロイヤルホテル駐車場7：20分全員集合 7：30出発  
17日（水）18：00頃 三条ロイヤルホテル駐車場 無事全員到着

### 東日本大震災被災地追悼ツアーに参加して 武田恒夫会員

今年6月に平泉には行きましたが、実際の被災地へ足を運んだのは今回が初めてです。テレビや写真で見る景色と実際の目で見る 南三陸町の姿は想像を絶する映像でした。防災対策庁舎での追悼献花も初日到着が遅れてしまい、そこには満潮の為、水が溢れバスすらも近づけない話を聞き改めて被害の大きさを実感しました。



翌日の追悼献花をした時も建物の骨組みをまじかに見て階段や、鉄骨などが曲がりくねっていたり、折れていたり、津波の威力は計り知れなく大きなものだと思います。その時の状況を語り部ガイドさんの話を思い浮かべながら線香をあげ、手を合わせました。この世の中には神はいないのかとも感じました。土地全体のかさ上げをし、住宅地を作るとの話がありましたが十数メートルの津波

がある中で数メートルのかさ上げでは安全は確保できるのだろうか？

瓦礫はまだ至る所にあり、自動車の残骸もそのまま、もうすぐ二年を迎えようとする今、復興の遅れがなによりも腹立たしい気持ちを抱きました。本当に切なく、我慢を虐げられているのは、被災された人たちです。未だに行方が分からない方たち、被災し亡くなられた方たちの思いを思うと日本国の対応の遅さだけに憤りを感じます。



南三陸町だけをみても、死者 611 人行方不明 237 人 5,362 世帯中 3,299 世帯が流失(62%) 避難者は多い時で 9,000 人を超えるこの災害。いち早く復興し安心して生活ができる日が一日でも早く訪れることを祈り、間接的にでも支援は続けていこうと強く感じ、そして実行していこうと思います。4R 合同での今回の企画に参加して大変良かったと思いました。初日、朝からの「乾杯」そして「まる」二本はキツカッタですがとても楽しい旅となりました。

次回、同様な企画があったら参加したいと思います。幹事の方たち、本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

## 被災地を訪ねて 吉田 文彦会員

秋空晴れ渡る 10 月 16 日、三条市内 4 ロータリークラブ参加による社会奉仕活動、東日本大震災の被災地南三陸町（旧志津川町）を訪ねました。

昨年の 3 月 11 日に大震災が発生して以来、日本全国はもとより、世界各国から救援支援の手が差しのべられて来ました。三条市内ロータリークラブでも募金が募られましたし、県内の農業者農業団体でも募金やボランティア派遣など被災地の復旧復興に向けた支援が発生から一年 7 ヶ月たった今日においても続けられています。私自身、募金の呼びかけをしながら被災地を尋ねることが出来ていなかったことから、今回の社会奉仕活動は良い機会でもありました。

早朝出発となりましたが、やはり遠隔の地であり、現地到着は午後三時頃となりました。被災地志津川の語り部、及川清孝氏から震災時の状況や、復興への取り組みなど、写真を見ながらの解説を受けました。来る途中、バスの車窓から見た被災地の現状は、全ての瓦礫が取り除かれ、かつて街なかであった証拠は道路左右の建物の基礎部分のみとなっておりました。改めて被災者自身の口から聞く震災直後の状況は、写真やテレビなどの報道で見聞してきたことと比べ物にならないほど言葉を失い心が締め付けられました。会場の入口に色紙にして掲示してあった被災者の言葉のなかで、「やめて やめて 津波に叫びながら 逃げる」「次は いつ戻れるか判らないんです 神様に謝って謝って 町を離れる」



からは、迫り来る津波の恐怖

と自然災害とはいえ、住み慣れた町を離れる悔しさが滲んでおり、さらに胸が熱くなりました。

12 日ホテルを出発し、南三陸町（旧志津川町）の被災シンボルのように報道されていた防災対策庁舎で早川会長が献花し参加者全員で黙祷を捧げ、犠牲者の冥福を祈りました。

国会では復興予算の使途が問題となっていますが、今回の社会奉仕活動に私自身参加し感じたことは、「百聞は一見にしかず」でした。現地を訪ね、被災者に会い、何が必要かを考えることこそ早い復興に繋がるものと思えました。

そして今後も息の長い支援活動に取り組んで行きたいと思えました。

素晴らしい機会を与えて頂いた市内 4 ロータリークラブ 社会奉仕委員のみなさんに感謝致します。



## 東日本大震災被災地追悼ツアー報告 丸山達夫会員

10月16・17日の2日間、三条市内4RC合同事業として「東日本大震災被災地視察研修ツアー」が举行されました。昔は11月3日の明治節（古いですか）が晴れの特異日でしたが、最近はこの10月14日が晴天の特異日だそうで、今度の企画も穏やかな秋晴れに恵まれ、きわめて有意義な裡に終了しました。各クラブからの総参加者55名、我が北クラブからは24名の参加がありました。



乗り挙げ合うパーティーも大切ですが、浴衣がけで一杯酌み交わしながらの各ロータリークラブ・スクランブル交流というのもまた、実によろしいものでありました。“いやあ、お顔は存じておったのですが、今後よろしく・・・まあ一杯”などと胡座かいてのお付き合いが始まれば、会員間の交流の輪も広がり、絆も一段と固く結ばれようというものです。



また会員諸氏は被災地支援の心、十分に両手でも溢れんばかりのお土産に散財され、復興に寄与されて来られまして、ご帰宅後はそれぞれの品々を開陳され、ご一家楽しく過ごされたことと思います。

最後にこの合同事業を企画され、実行されたメンバーの方々、本当に御苦労様でした。



クラブ構成員の諸氏は現役のバリバリですから、もうすでに所用などで現地を訪問されて、現状をつぶさにみておられる方も多いでしょうが、わざわざ出掛けていくのも憚られ、機会の無かった私などには惨状を目の当たりにして（粗方はすでに片づいてはおりましたが）地域の方々の災難不幸にあらためて心の痛むことでした。眼光紙背に徹すの言葉はありますが、ガラスの画面、薄い紙面からでは、人々の悲しみ苦しみは、ニュースとして希釈されてしか伝わらないのです。

地区や市の合同大会は色々あり、通常の「大会では背広にバッジ、ネクタイ着用で名刺片手に私はどこそこ、何の某々などと、名



また会員諸氏は被災地支援の心、十分に

